大野市上小池におけるウスリーマルハナバチ *Bombus ussurensis* Radoszkowski の採集記録

梅村信哉[*1]・柴田智広[2]

要旨：2014 年 6 月 1 日，大野市上小池（六本檜周辺）においてウスリーマルハナバチ 1♀を採集した．これは県内における本種の初記録である．その後の調査で，2021 年 8 月 31 日と 9 月 21 日に三ノ峰の登山道においてそれぞれ 2♀，1♀が採集された．

キーワード：ウスリーマルハナバチ，福井県，初記録，三ノ峰

Shinya UMEMURA[*1], Tomohiro SHIBATA[2]. 2022. A record of *Bombus ussurensis* Radoszkowski at Kamikoike, Ono City, Fukui Prefecture. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 25:75-76.
A female of *Bombus ussurensis* Radoszkowski was collected at Kamikoike (around Ropponhinoki), Ono City, Fukui Prefecture on 1st June, 2014. This is the first record of this species in Fukui Prefecture. After this record, 2 females and a female of this species were collected at Mt. Sannomine on 31st August and 21st September 2021 respectively.
Key words: *Bombus ussurensis* Radoszkowski, Fukui Prefecture, the first record

ウスリーマルハナバチ *Bombus ussurensis* Radoszkowski は，国内では本州中部地方，関東北部に，国外ではロシア沿海州，中国東北部，朝鮮半島に分布する（多田内・村尾編 2014）．国内の生息地は標高 700～2,000m の山林の林縁部，高山の草地，幼若齢の人工林，伐採後の草地やスキー場などとされる．個体数が少なく，分布が局限されているうえに，草地開発，土地造成，草地や牧草地，茅場などの管理放棄などに起因する生息環境の悪化による減少が危惧されており（多田内 2015），環境省のレッドリスト 2020（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編 2020）では情報不足に選定されている．そのほか，本種の分布が確認されている県のうち，長野県では絶滅危惧Ⅱ類，栃木県では絶滅危惧Ⅰ類，山梨県では情報不足に選定されている（長野県環境部自然保護課編 2015；栃木県自然環境課編 2018；山梨県環境・エネルギー部自然共生推進課編 2018）．

筆者は，大野市上小池において本種を採集したので，県内における初記録として下記の通り報告する．

ウスリーマルハナバチ　*Bombus ussurensis* Radoszkowski

福井県大野市上小池（六本檜周辺），1♀，1-VI-2014，柴田智広採集・羽田義任氏同定・福井市自然史博物館保管（FCMNH-JI19066　図 1）

筆者の一人，梅村は 2015 年以降，絶滅危惧種の昆虫の生息状況の確認のため，大野市三ノ峰において年間数回調査を実施している．同地点では，「改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物」（福井県安全環境部自然環境課編 2016）において絶滅危惧Ⅱ類に選定されているナガマルハナバチ *Bombus consobrinus* Dahlbom が安定して確認されているが，2014 年以降ウスリーマルハナバチが確認できているのは 2021 年 8 月 31 日に三ノ峰登山道の六本檜から剣ヶ岩の区間で 1♀，剣ヶ岩～避難小屋の区間で 1♀と，同年 9 月 21 日の剣ヶ岩～避難小屋の区間での 1♀のみである（標本所蔵：福井市自然史博物館；FCMNH-JI31468，31466，31637；環境省中部地方環境事務所国立公園課長より動物の捕獲・殺傷許可を得て（環中地国許第 2106211 号）採集）．三ノ峰一帯においても，ウスリーマルハナバチの個体数は非常に少ないと考えられる．

環境省の実施するモニタリングサイト 1000 事業では高山帯においてマルハナバチ類が調査項目になっており，北海道の大雪山で調査が実施されている（環境省自然環境局生物多様性センター編 2021）．三ノ峰では環境省のモニタリングサイト 1000 事業

* 連絡・別刷請求先（Corresponding author）E-mail: sumemura@ma.city.fukui.lg.jp
1 福井市自然史博物館　〒918-8006　福井県福井市足羽上町 147
Fukui City Museum of Natural History. Asuwakami-cho 147, Fukui, Fukui 918-8006, Japan.
2 福井市自然史博物館友の会　〒918-8006　福井県福井市足羽上町 147
Friendship Society of Fukui City Museum of Natural History. Asuwakami-cho 147, Fukui, Fukui 918-8006, Japan.

の高山帯の調査に倣ってチョウ類のモニタリング調査が実施されているが（梅村 2017，2018），当地域は希少種ナガマルハナバチの県内における安定した生息地となっている（福井県安全環境部自然環境課編 2016）のに加え，少ないながらもウスリーマルハナバチが生息していることが期待されることから，今後，マルハナバチ類についても詳細な調査を実施していくことが必要であると考えられる．

本稿を投稿するにあたり，羽田義任氏（故人）には標本の同定をしていただいた．鯖江市の室田忠男氏には，本文をお読みいただき，有益な助言を頂くとともに，県内におけるウスリーマルハナバチの生息状況についてご教示いただいた．環境省中部地方環境事務所白山自然保護官事務所の迫 裕樹氏には，白山国立公園特別保護地区における動物の捕獲・殺傷許可申請の際にお世話になった．福井県自然保護センターの大宮正太郎氏には，投稿にあたり，様々な便宜を図っていただいた．これらの方に心よりお礼申し上げます．

引用文献

福井県安全環境部自然環境課（編）．2016．改訂版福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016．福井県安全環境部自然環境課，福井．

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編）．2020．環境省レッドリスト 2020．<https://www.env.go.jp/press/files/jp/113671.pdf> 28-Ⅷ-2021 閲覧．

長野県環境部自然保護課（編）．2015．長野県版レッドリスト（動物編）2015．<https://www.pref.nagano.lg.jp/shizenhogo/kurashi/shizen/hogo/kisyoyasei/redlist/documents/ch3_2musekitsui.pdf> 28-Ⅷ-2021 閲覧．

環境省自然環境局生物多様性センター（編）．2021．2020 年度 モニタリングサイト 1000 高山帯調査報告書．<http://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/pdf/2020_aplin_zone.pdf> 28-Ⅷ-2021 閲覧．

多田内 修．2015．ウスリーマルハナバチ．環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編） レッドデータブック 2014 ―日本の絶滅のおそれのある野生生物― 5 昆虫類．ぎょうせい，東京．P487 ．

多田内 修・村尾竜起（編）．2014．日本産ハナバチ図鑑．文一総合出版，東京．

栃木県自然環境課 自然保護担当（編）．2018．栃木県版レッドリスト（第 3 次 / 2018 年版）．<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d04/documents/14kontyu_2.pdf> 28-Ⅷ-2021 閲覧．

山梨県環境・エネルギー部自然共生推進課（編）．2018．2018 山梨県レッドリスト．<https://www.pref.yamanashi.jp/shizen/documents/2018redlist.xlsx> 28-Ⅷ-2021 閲覧．

梅村信哉．2017．三ノ峰におけるチョウ類群集の多様性と季節変動．Ciconia，（20）：1-10．

梅村信哉．2018．三ノ峰におけるチョウ類群集の多様性（2017 年の記録）．Ciconia，（21）：13-22．

図 1 ウスリーマルハナバチのメス（大野市上小池（六本檜周辺），1-Ⅵ-2014，柴田智広採集・福井市自然史博物館保管（FCMNH-JI19066））